



特別企画 金型加工・部品成形のための レトロフィット&後付けツール

レトロフィット事例①

成形加工分野における レトロフィットのメリット

アイダエンジニアリング(株) 米川 均*

地球環境問題や労働力問題などわれわれの社会が直面している課題に対応し、近年、生産現場に求められる要求は高度かつ多岐にわたっている。例えば、自動車産業においては CO₂ 削減のため、車体や部品の軽量化が求められる一方で、衝突安全性を担保するため、

高強度な高張力鋼板やアルミ合金など難加工材の採用が増えている。また、省人化を実現し、労働力の高齢化に対応するため、生産設備の自動化・ロボット化のニーズが拡大しているほか、生産現場の「見える化」・デジタル化も進んでいる。

*Hitoshi Yonekawa：サービス本部 近代化業務部 近代化営業課 副課長
〒252-0134 相模原市緑区下九沢 1662
TEL (042) 716-6059

これらの要求に対し、新規設備への更新で対応するにはコストや納期が折り合わない場合、レトロフィット工事という選択肢がある。レトロフィット工事では、既存設備のオーバーホールを含めた精度や性能の改善、

新たな機能の追加、最新制御装置への置換などを行うことにより、最新技術を導入することができる。言わば「攻めのメンテナンス」であり、遊休設備の再活用というメリットもある。

当社は、材料供給装置や搬送ロボットなどの自動化装置の開発・設計・製造に加え、成形加工技術についての研究部門が専門的な周辺技術・ノウハウを蓄積している。プレス本体だけではなく、生産システム全体に対応できる総合力で、最適なレトロフィットを実施してきた。

本稿では、精度や性能の改善、新たな機能の追加、最新制御機器装置への置換などを実現したレトロフィット工事の最新の事例の一部を紹介する。

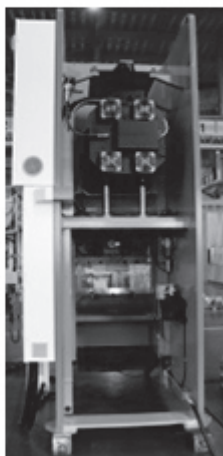


図1 メカ駆動式プレス機をサーボ化した事例